

ホンジュラス 2017 年総選挙 —大統領選挙を中心にして

中原 篤史

はじめに

ホンジュラスでは 2009 年のクーデターのあと、国民党、自由党の伝統的两大政党による政治支配が崩れ、左派や中道の新興政党が誕生した。その後、2013 年の総選挙では国民党が辛うじて勝利するも新政党が躍進し、変革と新しい政治へ期待が高まった。一方、大統領選挙に勝利していた当時の国会議長フアン・オルランド・エルナンデスは国会で国民党と共に過半数の議席を持つ状況を利用して、コ・アリアンサ (Coalianza) など官民連携の投資推進制度創設、燃料税増税、売上税増税 (12% から 15%)、軍警察新設など 200 以上の法・政令を選挙直後の 2013 年 11 月末から翌年 1 月の大統領就任までの 2 か月程度で立て続けに成立させるなど、同選挙で国民党が過半数の議席を取れなかったため就任後であれば困難が予想された懸案事項を前政権期間中に解決させた。しかし、クーデター以降の社会の分断が進んだ状態に加えて、こうした強引な手法への批判や、政権発足当初から国民党が絡んだ社会保障庁幹部の大規模な汚職や、麻薬組織と政治家との関係が暴かれる反面、国民党系幹部で占められて政権の公金不正使用の調査が進まない会計検査院など政権と与党への不満が高まった。

就任後は大統領再選について党内論議を起こさせて、議員団から国民党系判事で過半数を占める最高裁に訴えた。それを受けて最高裁では憲法の大統領再選禁止条項を不適用として、再選は可能とする司法判断を出した。それに対して野党や市民の強い反対運動が巻き起こり、全国的にデモ行進などの抗議活動が多発した。「ボノ 10,000 (Bono10,000)」など現金給付型社会保障政策を支持者優先で実施していると批判される中で、政府は主要メディアに政府広報の名目で膨大な広告料を支払い政権側に取り込み、弱者支援プログラムの宣伝を流し、また政治討論番組で「汚職」などのテーマを取り扱わないよう圧力をかけ¹、その一方では 2016 年 5 月に政権に批判的なメディアの TV Globo に対して放送免許の更

新を拒んだ。また刑法 590 条を改正し、反政権デモ参加者をテロリストとして逮捕できるようになり、施行後は多発している反政府デモ活動が摘発可能になった。

2017 年 11 月 26 日の総選挙後の開票結果も、不透明な集計プロセスなど野党だけではなく国際選挙監視団からも疑問が呈される中で、最高選挙裁判所 (TSE) は現職への勝利宣言をおこなった。こうして政権によって蔑ろにされるホンジュラスの民主主義に識者からは強い懸念が表明され、多くの市民からは批判が巻き起こった。開票を巡っては選挙後も野党側が結果を受け入れず支持者による暴動も発生し、今でも混乱が続いている。小論では、紙幅の関係から今回の総選挙のうち大統領選挙に絞ってその概要と結果について報告したい。

今次選挙

(1) 予備選挙: 予備選に参加した 3 大政党の動向

最高裁の司法判断による大統領の連続立候補が可能になると国民党内ではリカルド・アルバレス現副大統領の派閥「新しいホンジュラスのための団結 (Unidos por la Nueva Honduras)」の支援を受けたエルナンデス大統領の派閥「さらなる変化のため一緒に (Juntos por más Cambios)」と、ラファエル・カジェハス元大統領の派閥「カジェハス派」の一騎打ちとなった。結果は前サッカー協会会長であったカジェハス自身が FIFA ゲートで数百万米ドルを得ていた容疑で身柄を米国に拘束されていたため、いところのロベルト・カステージョ国会議員を立てたが党内の支持を得られず、エルナンデスの圧勝に終わった。

前回、エルナンデス大統領に肉薄した左派新党のリブレ党は 2013 年以降、野党第 1 党として大きな期待を受けた。しかし、政治活動が始まると支持層である労働組合や農民組合などの意見の汲み取りや組織化を怠った。その結果、不満を持つ多くの組合、支持者が去り、議員にも離党者が続出した。予備選

では前回に続いてシオマラ・カストロが唯一の候補となったが、2013年の本選が約90万票であったのが今回の予備選では46万票に留まった。危機感を募らせたリブレ党は各野党と共闘を呼びかけた結果、反汚職党（PAC-Partido Anti-corrupción）を出たサルバドル・ナスラーラや革新統一党（PINU）と統一候補擁立に成功し、「反独裁野党連合（Alianza Opositora Contra la Dictadura）」を創設しナスラーラを大統領候補、カストロを副大統領候補にする合意に達した。

自由党は2009年のクーデターにより党内中道左派が離党しリブレ党を立ち上げた結果、右派で保守の影響力が強くなった。今回は5人が立候補したが中米工科大学前学長ルイス・セラーヤが政治的には無名でアウトサイダーとして伝統的な政治手法や汚職とは無関係という清廉なイメージを前面に出して勝利した。一方で、彼は党内保守の重鎮フローレス元大統領の後ろ盾で立候補しており、また自由党は汚職問題では国民党と同様に麻薬組織との関係や汚職についての疑惑が絶えなかった。



反政権デモ行進に参加するナスラーラ（写真中央）- 執筆者撮影（2017年9月15日）

（2）本選挙

1980年代から総選挙の争点は「生活（生計向上）」、「雇用」が主であったが2000年以降「治安改善」や「汚職対策」も主たる争点になった。今回の選挙もおおむねこの4点が争点であったが、今回の選挙では各党の政策以上に大統領再選を憲法違反と感じる都市部の有権者を中心に再選問題に関心が高かった。投票率は58%であり有権者604万人のうち約328万人が投票した。予備選では国民党が137万6千票、自由党が60万票、リブレ党が46万票を獲得したが²、

それ以外の浮動票などで自由党やリブレ党が国民党との2倍以上の差を埋めることは困難だと予想された。しかし実際には浮動票と看做された都市部の若年層の多くが大統領への批判票として野党に投じたためナスラーラが票を大幅に伸ばし与野党2候補による僅差の争いとなった。

反独裁野党連合は、組織力の乏しいナスラーラがリブレ党の組織を利用し、リブレは野党で最も支持率の高いナスラーラの人気を利用するという両党にとってウィン・ウィンの戦略で選挙に臨んだ。ナスラーラの支持者の特徴は、①大都市居住者、②比較的教育水準が高い中道の中流階層もしくは専門知識層、③ミレナリオ（Milenario：ミレニアル世代）と呼ばれる都市部の若年層と言われている。同連合の選挙公約は10項目からなり、汚職撲滅を第1に置いた。経済政策でも現政権の全否定である「代替経済モデル」を提案して、売上税の減税、貧困世帯の150Kw/月までの電力無償化、民営化されていた各公社の再公社化、国民党政権下で推進していた「経済開発・雇用地区」(ZEDE)³創設や経済政策関連法廃止などを提唱したが⁴、代替案の実現手段が不明確で、他にも各種の減税、無償化の財源根拠はなかった。しかし、エルナンデス大統領再選への強い拒否感を持つ有権者や、都市部で国民党の政策の恩恵以上に弊害を受ける人たちからの強い支持を受けて大きく票を伸ばすことができた。

自由党は予備選で約60万票を獲得したが、本選大統領選では約48万票と12万票も失った⁵。しかし、自由党国会議員は主としてベテラン議員の再選により改選前議席は保持でき、市長選では全国89市で勝利していることから⁶、地方党員や支持者はセラーヤと党中央幹部への抗議票（Voto Castigo）として大統領選でセラーヤに投票しなかったとみられている。

国民党は勝利したものの民政移管以降の国民党大統領では最も僅差の勝利、県単位では6県で惨敗し、都市部の浮動票はほとんど獲得できず野党に流れた。国民党の主たる支持者は前回選挙から組織票と、党員以外には地方農村部の貧困階層で、社会支援プログラム⁷の恩恵を受けた人たちに留まり、選挙不正が告発される中での勝利であった。国民党の政権公約はZEDEを推進するための「成長のためのイノベーション」、貧困層への支援を継続する「クレジットへのアクセス」、民間との連携で道路・空港など社会イ

ンフラ建設を進める「ロジスティック・プラットフォーム（の推進）」、実社会に役立つ教育と病院網の整備を柱にした「保健と教育」、犯罪組織との闘い、刑務所の新設と強化、警察浄化を柱にした「治安」、正しい公的支出と債務、投資における明確な規律と透明性の整備を柱にした「国家の安定」、汚職対策のための公的調達・契約のプロセス強化や MACCIH⁸ や国際社会の監視を通じた公的調達・契約の適正化を柱にした「正直さと透明性」であり、基本的にこれまでの政策の継続である⁹。これによりクーデター直後の大統領選挙に国民党が勝利してから、3期連続（12年）で2022年までの長期政権となる。

選挙後の混乱

国民党エルナンデスが大統領選に勝利し、国会は国民党が13議席増となったが過半数には届かなかった。結果だけを見れば各メディアの予想通り国民党が勝利したが、TSEの開票の不手際などもあり内政は大混乱に陥った。当初TSEが発表していたスケジュールでの開票速報、即日開票が実施されず、翌日以降になって集計システムのサーバーダウンなど技術的問題を理由にして発表が延期された。野党側は、この空白の時間を利用した政権側による開票集計用紙改ざんなど集計プロセスにおける不正を告発し選挙結果を受け入れず¹⁰、また野党支持者による

抗議活動中に一部参加者が暴走し、略奪行為も発生した。そのため12月1日には全土に夜間外出禁止令まで出された（地方から順次解除され10日後に終了）。選挙直後の27日から翌1月27日の大統領就任式での抗議活動までの間に当局による鎮圧や、暴動の中で略奪を企てた者を中心に34人が死亡し¹¹、多数の負傷者と当局による逮捕者が出た。

結局、野党側の異議申立てにはほぼゼロ回答のまま、12月17日に最高選挙裁判所が集計終了宣言をおこない、その翌週には米国を皮切りに各国が選挙結果を承認して、幕引きとなった。元ボリビア大統領ホルヘ・キロガを団長とする米州機構の選挙監視団報告書や、それを受けての米州機構のステートメントにおいて、開票プロセスにおけるイレギュラーな開票行動、一部の不自然な集計結果、集計システムの問題などについて指摘した上で、今回の選挙結果については質の低いものであり承認も否定もしない旨の見解を出したが¹²、新政権とは関係を保つという対応であった。EUの選挙監視団も「選挙の問題は政治問題となっているが我々は技術的な支援を目的としており選挙結果を保証するための監視団ではない」という見解にとどまった¹³。反独裁野党連合側は米州機構の報告書内容や選挙プロセスにおける政権側の不正を理由に結果の受け入れを拒否したが、不正の証拠などは提出していない。反独裁野党連合を支

表：選挙結果

政党	大統領候補者	大統領予備選 得票数 ^{注1}	大統領本選 得票数（%）	国会議員数 改選後議席数 ^{注2}
国民党 Partido Nacional (PN)	フアン・オルランド・エルナンデス (Juan Orlando Hernández) (現大統領)	1,378,770	1,410,888 42.95	61
反独裁野党連合 (Libre, PINUの野党連合) Alianza de Oposición Contra la Dictadura	サルバドル・ナスラーラ (Salvador Nasralla) (前PAC党首、スポーツ ジャーナリスト)	461,825	1,360,442 41.42	34
自由党 Partido Liberal (PL)	ルイス・セラーヤ (Luis Zelaya) (前中米工科大学学長)	700,861	484,187 14.74	26
愛国同盟 Alianza Patriótica Hondureña (AP)	ロメロ・バスケス (Romero Vasquez) (元国軍司令官)	党内選挙 ^{注3}	6,517 0.20	4
反汚職党 Partido Anticorrupción (PAC)	マルレーネ・アルバレンガ (Marlene Alvarenga) (国会議員、弁護士)	党内選挙	5,983 0.18	1
キリスト教民主党 Partido Demócrata Cristiano (DC)	ルーカス・アギレラ (Lucas Aguilera) (国会議員)	党内選挙	5,900 0.18	1
民主統一党 Unificación Democrática (UD)	ホセ・ディアス (José Díaz) (元組合理事)	党内選挙	4,633 0.14	1
抗戦における選挙政治拡大戦線 Frente Amplio Político Electoral en Resistencia (FAPER)	イサイアス・フォンセカ (Isaías Fonseca) (建築家)	党内選挙	3,151 0.10	0
連帯行動党 Va, Movimiento Solidario (Vamos)	エリセオ・バジェンジョ (Eliseo Vallecillo) (元国会議員)	党内選挙	3,003 0.09	0

注1：有権者数 3,476,419 票（内、有効投票数 3,284,704 投票率 57.0%）、反独裁野党連合はリブレ党の票数

注2：反独裁野党連合の議席数内訳：リブレ党 30 議席、PINU4 議席

注3：予備選挙は党内予備選挙で代替することが可能

総選挙は任期4年（2018年1月27日～2022年1月27日）の大統領、国会議員（128議席）、市長（全国298市）、中米議会議員（20議席）

出所：最高選挙裁判所ウェブサイト <https://resultadosgenerales2017.tse.hn/>（2017年12月18日現在）

持する者による暴動、道路封鎖など抗議活動も断続的に続いている。この問題の収拾を図るため国連開発計画（UNDP）が「国民対話（Dialogo Nacional）」開催を提案し、3月12日には政府及び与野党代表と最初の準備会合が開かれており¹⁴、この問題の平和的解決に向けた取り組みとして今後の動向が注目される。



フアン・オルランド・エルナンデス大統領
出所：大統領府ウェブサイト（<http://www.presidencia.gob.hn/>）

おわりに

最高裁の司法判断による大統領再選可能に対する批判に加えて、既述のとおり選挙プロセスの問題から選挙の正統性が問われることになった。「国民対話」準備会合にはリブレ党は出席者を出しておらず、同会合の実効性も問われることになる。政府と反対派の対立が続くようだと、今後の4年間も内政混乱は続くことになろう。問題解決にはほど遠い状況ではあるが、米州機構やEUの監視団が指摘するように、政権側には最高選挙裁判所や国民登録局（Registro Nacional de Personas）など選挙に関連した公的機関の独立性や、選挙プロセスにおいてイレギュラーな事態に対する各政党の異議申立及び検証期間の改善など選挙法の改正、票集計システムなど技術的問題の改善などを野党側とも合意した上での確実な履行とそれによる信頼の回復が求められている。

（2018年3月13日記）

（なかはら あつし ホンジュラス国立フランシスコ・モラサン教育大学客員教授）

2017年12月18日現在。

- 3 Zonas de Empleo y Desarrollo Económico : ZEDE 現行法・制度に捉われない自由経済地区。
- 4 Alianza Opositora Contra la Dictadura, 2017, Propuesta del Gobierno.
- 5 予備選でセラーヤは60万票で、その他の自由党候補者との合計は70万票。
- 6 市長選結果内訳（全298市）：国民党173市（58.1%）、自由党89市（29.9%）、リブレ党31市（10.4%）、その他5市。
（最高選挙裁判所ウェブサイト<https://www.tse.hn/web/> 2017年12月18日現在）
- 7 「ボーノ10,000」や「ボルサ・ソリダリア」など。
- 8 OAS主導の「ホンジュラス反汚職・無処罰支援ミッション（The Misión de Apoyo Contra la Corrupción y la Impunidad en Honduras）」
- 9 国民党ウェブサイト、<http://partidonacional.hn/>, 2017年10月25日現在。
- 10 各党に渡される各投票所の開票結果の写しがオリジナルと一致していない、一部の開票結果に立会員の署名がない、一部の開票結果が反映されていない、など約5,000か所の投票結果を見直すよう要請した。
- 11 TV局Telesurウェブサイト、<https://www.telesurtv.net/news/Cual-es-la-situacion-en-Honduras-tras-las-elecciones-20180112-0033.html>、El Diarioウェブサイト https://www.eldiario.es/internacional/elecciones-supuesto-electoral-muertos-Honduras_0_737376571.html 双方とも2018年3月12日現在などの報道による。
- 12 OEA, Informe preliminar-moe-honduras, 2017. 及び Segundo Informe Preliminar-MOE-Honduras, 2017
- 13 2018年3月6日 Canal6の討論番組“Frente a Frente”におけるEU選挙監視団長Marisa Matíasの発言など。
- 14 大統領府ウェブサイト <http://www.presidencia.gob.hn/index.php/sala-de-prensa> 2018年3月12日現在、La Prensa紙, “ONU considera positivo la participación de partidos políticos en diálogo”, 2018年3月13日現在。

1 2017年9月11日筆者によるフランシスコ・モラサン国立教育大学フリオ・ナバーロ（Julio Navarro）教授へのインタビューによると「討論番組で汚職がテーマで出演依頼が来るが直前にテーマが変わることが少なくない」とのことであった。

2 最高選挙裁判所ウェブサイト<https://www.tse.hn/web/>